

之低下し殊に昨年中の臨んとし侍遊を一先時を爰  
に終るるべく半談遊は二ヶ月に亘るる事ありし  
おめわ留一層の穴窟境三階一白蓮供賦を成せし  
むるの已む時をさる可かりさる状態を保持せし  
お侍遊業中は侍遊に成るる侍遊を以て他会成  
より招聘する事ありしも只会社の隆盛を祈る  
至城けかたき実現するもの時期俟て其一節を侍  
遊也る也果然りて実業界の巨星を獨り成せし  
るに其等侍遊業員一同侍遊業と成るに遊業を  
るに知と少くも以て以て其業を不絶の努力力  
漸く之を嚆者を見せし矢先より凡木尼崎  
西工場の閉鎖を以ては余に遺憾あり  
然るに吾等が最も若渾とする知は目下業界

不振の折柄到底短日丹に吾等収容場ゆり  
去く途うて我輩の小たる解雇多きを去り支給せら  
るる力に止る途業の不義理供賦を償ふを侍遊  
帰郷又は移籍に其費用を少く其向妻子と  
共に見送らざる侍遊する此境に陥るは必然にて  
吾々悲愴之途たる事ありしお述の如く状態あり  
あるを以て何卒世間情ある事死慮を致し  
他途を求むる事心の充ちたる解雇多きを仰  
まらざるに遊遊を以て其難に及べし也

大正十三年七月十日  
遊業員一同の連名

撰也生織工業社  
甘藷毛 敬 殿